

研究成果情報		園 芸	11	野 菜	病害虫
新技術・情報名	果菜類灰色かび病におけるチオフ ァネートメチル剤とジェットフェン カルブ剤の複合耐性菌の発生			分 類	②

## 1. 成果の内容

### 1) 技術・情報の内容及び特徴

果菜類灰色かび病に有効な新規化合物ジェットフェンカルブ剤はチオフ  
ァネートメチル剤と負相関交差耐性の薬剤であるが、本県においてもい  
ちご、トマト、きゅうりの灰色かび病で両剤に対して同時に耐性を示す  
複合耐性菌が初確認された。

- (1) 両剤の複合耐性菌の発生圃場はいちごは糸田町、トマトは北九州市、  
きゅうりは甘木市で、いずれも1圃場であった。
- (2) 複合耐性菌の発生菌株数はいちご、トマトは1菌株であったが、きゅ  
うりは検定した4菌株のすべてが耐性を示した。

### 2) 技術・情報の適用効果

複合耐性菌発生 of 早期確認により、有効な防除薬剤の選定や今後の発  
生抑制のための防除対策の資料となる。

### 3) 適用範囲

県下の果菜類栽培地域

### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 上記の複合耐性菌発生圃場では、現時点においては防除効果の低下は  
見られていないが、両剤複合耐性菌に対してはゲッター水和剤（ジ・エトフ  
ソカルブ・チオファネートメチル剤）の効果が劣るので、スミブレンド水和剤（ジ・エトフ  
ソカルブ・フロシミン剤）や他の接触型殺菌剤（ユー・エス水和剤、ホリキシン剤、  
ホリハリン水和剤）を使用する。
- (2) ジェットフェンカルブを含有する薬剤は、耐性菌の発生を抑えるため、  
連用を避け、1作期の使用回数を3回以内にとどめる。

2. 具体的データ

表1 果菜類灰色かび病における薬剤耐性菌発生状況 (平成3年)

作物名	調査圃場数	調査菌株数	耐性菌株数			チオファネートメチルとジエトフェンカンブの複合耐性菌株数
			プロピミトフ	チオファネートメチル	ジエトフェンカンブ	
いちご	26	94	14 (14.9%)	14 (14.9%)	80 (85.1%)	1 (1.1%)
トマト	8	25	6 (24.0%)	19 (76.0%)	7 (28.0%)	1 (4.0%)
なす	4	11	6 (54.5%)	9 (81.8%)	2 (18.2%)	0 (0%)
きゅうり	1	4	1 (25.0%)	4 (100%)	4 (100%)	4 (100%)

注) ① ( ) は耐性菌率

② いちごではチオファネートメチルとジエトフェンカンブの両剤に感受性の菌株を1菌株検出

3. その他特記事項

担当部科室名：生産環境研究所 病害虫部 野菜花き病害虫研究室

研究担当者名：池田 弘・中村利宣・大野和朗

研究課題名：農業耐性菌検定事業

期 間：昭和55年～継続 予算区分：国庫

既発表論文・資料名等：平成3年度野菜花き病害虫関係試験成績概要書

取りまとめ責任者名：池田 弘